

本格的な環境の授業は初めてだという宮城県・八木山小学校の5年生。二つの授業を通して積極的に発言し、楽しみながら環境問題に関する知識を深めた。



仙台市立八木山小学校(宮城県)

1時間目

朝日新聞社「地球はいま」



カリフォルニアでの山火事の取材は上空から見た山の様子に加えて、消火する作業員に配られるという一日分の食料など、周辺事情も詳しく解説。このほか、国内外の様々な事例をわかりやすく伝えた

◆地球温暖化で起こる世界各地の異変

神田先生はまず、二酸化炭素などの温室効果ガスが原因で地球の温度が上昇していることを説明。そして、7月に取材したアメリカ・カリフォルニア州の山火事を中心に、南太平洋に位置するツバルでの海面上昇問題などを解説していく。

「夏のカリフォルニアは乾燥がひどく、山火事が広がりやすくなります。木が減ると二酸化炭素の吸収量が下がってしまいますよね。それに、木が燃えることで二酸化炭素が排出されます。山火事の問題は深刻で、現地の人の暮らしも脅かされているのです」

話に聴き入る子どもたちに神田先生は、二酸化炭素の排出を減らすためのアクションを紹介。「皆さんはどう思いますか?」と意見を求めると、子どもたちからも「電気をこまめに消す」「紙などの資源を大事にする」といった声が上がった。



担当講師: 神田明美さん
朝日新聞東京本社
科学医療部

2時間目

ナブテスコ「省エネルギーを考えよう」

◆ナブテスコの自動ドアは身近にある

藤田先生が自社の自動ドアブランド・NABCOのロゴや放送しているテレビCMをスライドに映す。「皆さんはこれ、見たことありますか?」と質問すると、たくさんの手が上がった。日本国内で設置されている自動ドアは約200万台あるといい、その半分ほどがナブテスコのもの。「この近くだと、八木山児童館や八木山動物園、仙台赤十字病院などでも使われています」。子どもたちは身近なスポットが取り上げられたことで、グッと興味を引かれたようだ。「私たちは、皆さんが日頃から使っている自動ドアでの省エネに取り組んでいます」と藤田先生。電気を使うはずの自動ドアで? 授業はいいよいよ本題へ入っていく。



子どもたちの身近なスポットのほか、東京の虎ノ門ヒルズなど国内各地にオープンした施設で「NABCO」が設置されていることを紹介



担当講師: 藤田 恵さん、吉田康美さん
ナブテスコ株式会社



センサーが反応し、ドアが開く度に「おお～」という声上がる

◆「省エネ」と「便利」を両立する新しい自動ドア

「自動ドアの消費電力はどのぐらい?」。クイズの答えは20Wで、蛍光灯とほぼ同じ。また平均的な自動ドア1台の1ヵ月あたりの電気代は約76円ほどだという。子どもたちには驚きの連続だ。藤田先生はこのほかにも、東日本大震災後に取られた節電対策調査の結果などを例に挙げながら「不便な省エネでは長続きしません。私たちは地球と人にやさしい製品づくりに取り組んでいます」と新型自動ドア「インテリジェントecoドアシステム」を紹介した。

ここで吉田先生にバトンタッチ。まずは一般的な自動ドアのパーツや機能を説明する。そして、新型自動ドアは72のセンサーで正面から通り抜けようとする動作だけを感知して開くことを伝えた。「ミニチュア版を試してみたい人は?」。熱心にメモを取っていた子どもたちが顔を上げ「やりたい!」と猛アピール。省エネとバリアフリーに配慮された製品に、すっかり心を奪われたようだ。

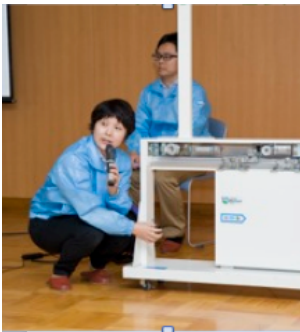
◆自動ドアを安全に使うためには?

授業終盤には医療機関などで取り入れられている製品「スライドグライド」の動画を紹介。人が通るときには通常の幅で開閉し、台車やベッドなど大きなものが通るときにはそれを感知して全開するというものだ。「なにこれ!」「センサーすごすぎる!」といった声飛び交い、教室中が盛り上がった。

どんどん便利になっていく自動ドア。しかし、どんな機械も使い次第で危険が生じてしまう。最後は自動ドアを通り抜けるときに考慮すべき問題を話し合うグループワークの時間が取られた。おさらいクイズもほぼ全員が正解し、45分間の楽しい授業は幕を下ろした。



グループワーク後の発表では「ドアの前で立ち止まらない」「走って通り抜けられない」などの意見が出た



藤田先生のやさしく親しみやすい語りかけで、子どもたちはリラックスして授業を受けることができた。最後にはエコバッグやかるたなどのお土産が配られ、大喜び!

担当教諭から

仙台市立八木山小学校 孫入みな先生

子どもたちは来年3月の総合学習で、環境をテーマにした発表をすることになっています。今回の授業を通して現場の声と実際の取り組みを学ぶことができ、とても大きな収穫があったと思います。柔らかい頭で何でも吸収し、自分で物事を考えられる年頃ですから、知識を蓄えながら、学校や家庭での行動につなげてほしいです。